



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	コリャーク語の「形動詞」の機能：「動作者名詞」との比較を通して
Author(s)	呉人, 恵
Citation	北方人文研究, 10, 145-164
Issue Date	2017-03-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/65824
Type	departmental bulletin paper
File Information	10_11_kurebito.pdf



コリャーク語の「形動詞」の機能 —「動作者名詞」との比較を通して—

呉人 恵
(富山大学)

1 はじめに

コリャーク語 (Koryak: チュクチ・カムチャツカ語族) の動詞屈折形式は、伝統的に、定形動詞と非定形動詞である「動詞の名詞的形式 (imennye formy glagola)」(Zhukova 1972: 256) に分類され、後者に副動詞 (deeprichastie)、形動詞 (prichastie)、不定形 (infinitiv)、目的分詞 (supin) が属するとされてきた (Zhukova 1972)。本稿では、このうち、形動詞とされる < ye-/ya-¹ + 動詞語幹 + 人称接辞 > という形式 (以下、動詞 GE 形と略) を取りあげ、その特性について考察する。「形動詞」とされる動詞 GE 形は、大きく次のような特徴を持つ。

- ① 動詞裸語幹に共同格接周辞 ye-/ya...-te/-ta の前半要素 ye-/ya- が接続して形成されたものと考えられる。
- ② 所有の意味を表す名詞述語と同じ屈折変化をする (e.g. ya-qoja-mojo 「私たちはトナカイを持っている」 vs. ya-gvo-mojo 「私たちは始めた」)。
- ③ 連体修飾語や主節述語として用いられる。

東アジア諸言語に広く見られる形動詞は、形動詞形成専用接辞により形成され、連体節述語として以外に、主節述語や名詞節述語としても用いられるなど、多機能的であることが特徴とされている (長崎 2013、Malchukov 2013)。Malchukov (2013) によれば、このような多機能性は、非定形動詞の定形動詞へのリニューアル、言い換えれば、動詞化や脱従属化の過程で生じたものであるという。一方、コリャーク語の動詞 GE 形は格接辞により形成される点では、周辺諸言語の形動詞とは異質な性格を持つ。しかし、連体修飾語や主節述語として多機能的に働く点では、似た特徴を持つといえる。

ところで、Zhukova (1972) では動詞 GE 形を「形動詞」としているものの、実際には連体修飾語として用いられている例が一例もあげられていない。また、同系のチュクチ語やアリュートル語にも動詞 GE 形に相当する形式があるが、両言語の文法記述でも連体修飾語として用いられることについての言及は管見のかぎり見当たらない。ちなみに、チュクチ語では「名詞化した動詞の述語形式」(Bogoras 1922: 758)、「過去 II (結果相)」(Skorik 1977: 35)、「動詞の屈折形式」に対する「静的屈折形式 (完了)」(Dunn 1999: 191)、アリュートル語では「定形動詞の単人称活用形」(Kibrik et al. 2004: 253) などとされ、主節述語としての機能が

¹ 2 種類の異形態は母音調和による。コリャーク語の母音調和についての詳細は呉人 (1999) を参照されたい。

強調されている。とはいえ、コリャーク語では、Zhukova (1972) 以前にも、動詞 GE 形を「形動詞」として、たとえば同系のイテリメン語の連体修飾機能を持ち、本来の形動詞に近い形式に相当するものとみなす先行研究が見られる (Stebnitskij 1934, 1936)。また、シベリア諸言語の動詞化、脱従属化を類型論的に論じた Malchukov (2013: 192) では、チュクチ語の動詞 GE 形を「分詞的述語 (participial predicate)」としており、動詞 GE 形を形動詞と結びつける傾向がないわけではない。

そこで本稿では、動詞 GE 形の特性を、名詞 GE 形や、同じく形動詞的な特徴を持ち、意味的な関連性もある「動作者名詞 (imja dejatelja)」(Zhukova 1972: 137) と呼ばれる形式と、形態・統語両面から比較することにより明らかにする。論じるのは、主に次の2点である。

- (A) 動詞 GE 形は連体修飾語、主節述語のいずれとしても用いられ、その意味では形動詞的であるといえる。ただし、このうち連体修飾語としての機能は、意味的にも形態的にも制限があり、完全とはいえない。名詞 GE 形にも同様の特徴が見られる。このことから、動詞 GE 形は主節述語としての機能を主とし、連体修飾語としての機能は副次的であると考えられる。
- (B) 一方、動作者名詞は名詞項、連体修飾語、連体修飾節述語、名詞節述語、主節述語として広く用いられ、より形動詞的な性格を強く持つとともに、動詞 GE 形の機能的な欠落部分を補完している可能性がある。

本稿の構成は次のとおりである。第2節で、定形動詞ならびに動詞 GE 形以外の非定形動詞の形態的特徴を概観する。第3節では、動詞 GE 形の形態的・統語的特徴を記述する。第4節では、動詞 GE 形と同じ屈折変化をする所有の意味の名詞述語（以下、「名詞 GE 形」と略）と動詞 GE 形を比較し、両者の類似点と相違点を洗い出し整理する。次に第5節で、動作者名詞と動詞 GE 形を比較することで前者の形動詞的性格と後者の述語的性格を浮かび上がらせるとともに、前者が後者に対して補完的に機能している可能性を指摘する。

2 定形動詞・非定形動詞の形態的特徴

動詞 GE 形の形態的特徴については第2節で詳述するとして、本節では、コリャーク語の定形動詞ならびに、GE 形以外の非定形動詞の形態的特徴を概観する。

2.1 定形動詞

定形動詞は、動詞語幹の前後に派生接辞、屈折接辞を配置することにより形成される。表1は定形動詞の線条構造である。

表 1: コリャーク語定形動詞の線条構造

-4	-3	-2	-1	0	+1	+2	+3	+4
S/A agree- ment /In- verse	Mood	P agree- ment	Incor- pora- tion	stem	Plura- lizer	Aspect /Mood	A+P agree- ment	S/P agree- ment

定形動詞は直説法、希求法、条件法を区別する。(1)は直説法(非未来)、(2)は希求法、(3)は条件法の例である。いずれも自動詞でSは1人称単数である(Sの出現は義務的ではないため、丸括弧に入れる)。なお、以下の例に現れる-əは、語中の3母音連続、語末の2母音連続を避けるための挿入母音である。

- (1) (yəmmo) ɲanko qonpəŋ t-ə-ko-jecvan-ɲəvo-ŋ.
1SG.ABS there always 1SG.S.IND-E-IPF-play-HAB-IPF
「私はいつもそこで遊んでいる／遊んでいた」
- (2) (yəmmo) ɲalvəlf-etŋ m-ə-lqət-ə-k.
1SG.ABS reindeer.herd-ALL 1SG.OPT-E-go-E-1SG.OPT
「私はトナカイの群れに行くでしょう」
- (3) (yəmmo) təŋ-ə-ɲvo-k vetat-ə-k.
1SG.ABS 1SG.S.COND-E-begin-1SG.S.COND work-E-INF
「私は働き始めたらなあ」

定形動詞は主節述語として用いられるだけでなく、副詞節や連体修飾節の述語として用いられることもある。典型的な副詞節は後述の非定形動詞形で現れるが、定形動詞に置き換えることも可能である(4)(5)(Kurebito 2012)。下例(4)(5)では、スラッシュの前が定形動詞(4は完了形、5は不完了形)、後ろが非定形動詞である。

- (4) məjew ajyəve unmək muq-et-i-∅ / muq-et-ə-k,
because yesterday very.much rain-VBL-PF-3SG.S / rain-VBL-E-LOC
emfu=qun ecyi n'uce-l'q-ə-n unmək imciyu-i-∅.
so=INT now earth-surface-E-ABS.SG very.much get.wet-PF-3SG.S
「昨日、大雨が降ったので、今、地面はとても濡れている」
- (5) ekilu ku-muq-et-ə-ŋ-∅ / muq-et-ə-k, (yəmmo) qonpəŋ
if IPF-rain-VBL-E-IPF-3SG.S / rain-VBL-E-LOC 1SG.ABS always
jaja-k t-ə-ko-tva-ɲvo-ŋ.
house-LOC 1SG.S-E-IPF-stay-HAB-IPF
「もし雨が降ったら、私はいつも家にいる」

連体修飾節は、接近可能性階層(Keenan and Comrie 1977)によって、分詞あるいは関係詞＋定形動詞により表わされる。すなわち、主要部名詞が階層の高い自動詞主語および他動詞目的語の場合には、連体修飾節は分詞により形成される²。一方、階層の低い斜格名詞や所有者名詞は、関係詞＋定形動詞により形成される(呉人 2008)。(6)は場所を表わす関係副詞＋定形動詞(不完了形)の例である。

- (6) en'pic-∅ qətt-i-∅ wajam-tajn-etəŋ, miŋki ɣamin ajyəve
father-ABS.SG go-PF-3SG.S river-shore-ALL where INTRJ yesterday

² ただし、他動詞主語は連体修飾節化できない。

³ この例では、動詞述語形（不完了）は 2SG.S と 3SG.S が同形であるため、人称代名詞 *yæcci* は省略できない。

次の(7)(8)は自動詞の過去 I の例、(9)(10)は他動詞の過去 I の例である。ちなみに、チュクチ語の同形の形式を、Nedjalkov (1994) はアオリスト、動詞 GE 形を完了形としている。

- (7) *ʕam mət-yəntaw-la-Ø jajtətəŋ.*
but 1PL.S-run.away-PL-PF home
「しかし、私たちは家に逃げ帰った」
- (8) *vəʕajok cinin ŋəvo-la-j-Ø pəʕon-yele-k.*
afterward oneself begin-PL-PF-3SG mushroom-look.for-INF
「その後、彼らは自分でキノコを探し始めた」
- (9) *t-əpan-naw-Ø pəʕona-w to ʕəmleŋ t-ə-ʕejŋew-new-Ø*
1SG.A-boil-3PL.P-PF mushroom-ABS.PL and again 1SG.A-E-call-3PL.P-PF
el'ʕa-w.
woman-ABS.PL
「家に帰ると、私はキノコを煮て、再び女たちを呼んだ」
- (10) *ləʕəp-o ʕopta ine-n-ʕəjul-ev-i-Ø tajk-ə-yiŋ-o.*
trap-ABS.PL also 1SG.P-CAUS-learn-CAUS-PF-3SG.A make-E-NML-ABS.PL
「彼はまた、罠の作り方も私に教えてくれた」

2.2 非定形動詞：副詞節述語を中心に

次に、非定形動詞の形態的特徴を概観する。伝統文法で「副動詞」と呼ばれる形式は、後の議論で明らかになるようにこの用語に馴染まない側面があるため、ここでは仮に「副詞節述語」と呼ぶことにする。

コリヤーク語の非定形動詞を形態的特徴から分類すると、動詞が名詞化を経ないタイプ（＝非名詞化タイプ）と、動詞が名詞化を経るタイプ（＝名詞化タイプ）がある。この形態的分類により非定形動詞をとらえなおすと、動詞 GE 形と不定形は非名詞化タイプであり、副詞節述語には非名詞化タイプと名詞化タイプの両方がある。そして、いずれの形式も格接辞と結びつく（表 4）。上述のように、副動詞までもが「動詞の名詞的形式」のひとつとみなされるのは、この格接辞と結びつく特徴のゆえである。

表 4：非定形動詞における名詞化タイプと非名詞化タイプ

形態的タイプ	動詞 GE 形	不定形	副詞節述語
名詞化タイプ	×	×	○ (場所格／与格／方向格)
非名詞化タイプ	○ (共同格)	○ (場所格)	○ (場所格／与格／共同格／随格)

不定形は、動詞の裸語幹に場所格接尾辞 *-k/-kkə* が付加されることにより形成される (e.g.

jet-ə-k「来る」、*ju-kkə*「食べる」)。

次に、副詞節述語について見る。(11)(12)は非名詞化タイプの副詞節述語である。非名詞化タイプの(11)は、動詞裸語幹に場所格 *-k*、(12)は道具格 *-e* がそれぞれついて時間節を形成している(呉人 2016)。

- (11) *jajt-ə-k, kəta ya-qlev-o-ŋvo-ta.*
return.home-E-LOC only.then COM-bread-eat-INH-COM
「家に帰ってから、パンを食べ始めなさい。」

- (12) (*ŋəm-nan*) *t-ə-cvi-tku-new-Ø, yəcci em-jəlqet-e.*
1SG-ERG 1SG.A-E-cut-ITR-3PL.P-PF 2SG.ABS only-sleep-INS
「お前が寝ている間に、私はそれらを切った。」

(13)(14)は名詞化タイプの副詞節述語の例である。(13)は動詞語幹に *-nv*「場所」という名詞化接辞がつき、さらに与格接辞 *-ŋ* がついた例である。(14)は、動詞語幹に名詞同様格・数変化する関係形容詞形成接辞 *-kena*、さらに方向格の *-jtəŋ* がついた例である。

- (13) *jəqmitiw k-ena-n-ə-kj-aw-ŋəvo-ŋ-Ø,*
in.the.morning IPF-1SG.P-CAUS-E-wake.up-CAUS-HAB-IPF-3SG.A
mely-at-ə-nv-ə-ŋ.
fire-VBL-E-place-E-DAT
「朝、彼／彼女は火を焚くために私を起こす」
- (14) *wejəm-Ø qet-ə-kena-jtəŋ, mət-k-ajaŋo-ŋvo-la-ŋ.*
river-ABS.SG freeze-E-REL-ALL 1PL.S-IPF-fish-HAB-PL-IPF
「私たちは川が凍るまで釣りをしている／していた」

格接辞と結びつく副詞節述語の非名詞化タイプ、名詞化タイプいずれも、動詞の屈折形式としての副動詞と同一視するのは難しい。ちなみに、周辺の言語で同様の非名詞化タイプを示すのは、エスキモー・アリュート語族のうち、ロシア側チュコトカ半島と北米側のセント・ローレンス島に分布する中央シベリア・ユピック語やナウカン語のみである(呉人 2016)。また、他のエスキモー・アリュート語族には見られないことから(de Reuse 1994)、チュクチ・カムチャツカ語族からの借用の可能性が考えられることは、呉人(2016)が指摘している通りである。一方、名詞化タイプは、アルタイ型諸言語などにも広くみられるが、通常、これを副動詞とすることはない⁴。

以上のコリャーク語の非名詞化タイプと名詞化タイプで用いられる格接辞と副詞節の種類を表示すると表5のようになる。

⁴ 名詞化タイプは、Anderson(2006)も区別しているように、副動詞ととらえないのが一般的であるが、Nedjalkov(1998)のようにツングース系の言語について、副動詞形成専用接辞に加え、名詞化タイプも副動詞ととらえている研究者もいる。

表 5：名詞化・非名詞化タイプで用いられる格接辞と副詞節の種類

タイプ	形式	格	時間節	目的節	原因節	条件節	様態節	引用節導入
名詞化	- <i>kena-jtəŋ</i>	方向	○					
	- <i>nv-etəŋ</i>	方向		○				
	- <i>nv-ə-ŋ</i>	与		○				
	- <i>nv-ə-k</i>	場所		○				
非名詞化	- <i>k</i>	場所	○		○	○		
	- <i>e/-a/-te/-ta</i>	道具			○		○	
	- <i>ŋ</i>	与					○	○
	- <i>ma</i>	共同	○					
	<i>yejqə-/yajqə-..e/-a/-te/-ta</i>	随	○					

ところで、非名詞化タイプの主な機能は副詞節形成であるが、動詞語幹に共同格接周辞 *ye-/ya-..e/-a/-te/-ta* がついた形式は命令形として用いられる (15) (16)⁵。

- (15) *tite=ŋən ineq-Ø ye-t-ineq-ə-ŋ-e.*
 in.some.time.or.other sledge-ABS.SG COM-make-sledge-E-make-COM
 「いつか橇に荷を積みなさい」

- (16) *kitkit it-ə-k picy-ə-ŋ, jaqam ye-lq-ə-te*
 as.soon.as run.short.of-E-LOC food-E-DAT immediately COM-go-E-COM
anotvanv-etəŋ.
 spring.camp-ALL
 「食料が足りなくなったらすぐに、春営地に行きなさい」

3 動詞 GE 形の形態的・統語的特徴

3.1 主節述語としての動詞 GE 形

次に動詞 GE 形について見る。動詞 GE 形は、主節述語として「過去 I」を表す定形動詞に対し、「過去 II」を表すとされている (Zhukova 1972)。表 6 は、動詞 GE 形の屈折パラダイムである。表 2、3 で示した過去 I の定形動詞形の複雑な屈折パラダイムとは対照的に、自動詞でも他動詞でも同じ単純な活用を示す。ただし、語末の人称・数標識は、自動詞では S と、他動詞では P と一致する。

⁵ Kibrik et al. (2004: 257) では、この共同格接辞による命令形を、「非人称活用形 (impersonal conjugation)」のひとつとしている。

表6：動詞 GE 形の屈折体系類

	単数	双数	複数
1 人称	ye-/ya...iɣəm	ye-/ya...muji/-moje	ye-/ya...muju/-mojo
2 人称	ye-/ya...iɣi	ye-/ya...tuji/-toje	ye-/ya...tuju/-tojo
3 人称	ye-/ya...lin/-len	ye-/ya...linet/-lenat	ye-/ya...linew/-lenaw

(17) (18) は自動詞 GE 形の例である。

- (17) qojamtalɬ-ə-n jaqam ye-lq-ə-lin tənup-etəŋ.
reindeer.herder-E-ABS.SG immediately GE-go-E-3SG.S hill-ALL
「トナカイ牧夫はすぐに丘の方に行った」

- (18) pəlak-ə-t ya-mal-qit-ə-lenat ləyan məjew jaleko-k
boot-E-ABS.DU GE-very.much-freeze-E-3DU.S even because slide-LOC
qejal'ɣ-ə-ciko.
coldness-E-inside
「寒い中を櫓すべりしたので、ブーツはかちこちに凍ってさえた」

(19) (20) は他動詞 GE 形の例である。なお、他動詞 GE 形では A との一致は標示されないため、A は、(20) の ə-nan のように別途示されない限り不明である。

- (19) ŋano qajaqle-ŋqal yeyuwkəvətq-ə-k ya-jto-jɣəm.
probably Qajaqle-direction Geguwkuvutuqun-E-LOC GE-give.birth.to-1SG.P
「私をカジャクレの方にあるゲグウクヴァートウクン川のほとりで生んだ」

- (20) ə-nan ye-kmil-lin metɬa-ʔ-el'ɬa-Ø.
3SG-ERG GE-take-3SG.P beautiful-E-woman-ABS.SG
「彼は美しい女を娶った」

紙幅の関係上、動詞 GE 形の意味についての詳細には踏み込まず、別稿で改めて論じたいが、動詞 GE 形は「過去」というよりも、むしろ結果アスペクトを表わすと考えた方がよい(21) のような例が見られることにも注意されたい。

- (21) ecyi kitkit mət-ko-wel-al-la-ŋ, ewən ya-ŋvo-mojo
now as.soon.as 1PL.S-IPF-wet-VBL-PL-IPF already GE-begin-1PL.S
cawjiŋ-cij-ə-k.
cough-INT-E-INF
「今では、私たちは濡れるとすぐに咳き込み始めてしまっている」

3.2 連体修飾語としての動詞 GE 形

先行研究では言及されていないが、動詞 GE 形は連体修飾語としても用いられる。絶対格の主要部名詞のみ修飾可能である。(22) (23) は動詞 GE 形が S を修飾している例、(24) は

P を修飾している例である。主節主語で用いられる *ye-/ya-...-lin/-len* (単数)、*ye-/ya-...-linet/-lenat* (双数)、*ye-/ya-...-linew/-lenaw* (複数) が、それぞれ絶対格単数、絶対格双数、絶対格複数の主要部名詞との一致を示す。グロスでは数のみ表示して SG/DU/PL とする。

- (22) *ɲanko ko-tva-ŋ-Ø ya-qit-ə-lin kinuɟi.*
 there IPF-exist-IPF-3SG.S GE-freeze-E-SG meat(ABS.SG)
 「あそこに凍った肉がある」

- (23) *ɲanko ko-tva-ŋ-e ya-cɲal-lenat kojɟ-ə-t.*
 there IPF-exist-IPF-3DU.S GE-crack-DU cup-E-ABS.DU
 「あそこに 2 つのひび割れたコップがある」

- (24) *ʕ-ə-jet-y-ə-new ya-paje-lenaw naly-u.*
 2SG.A.OPT-E-bring-E-3PL.P GE-shave-PL fur.skin-ABS.PL
 「毛を削いだ毛皮 (複) を持ってきなさい」

ただし、動詞 GE 形の連体修飾語としての使用には、次のような形態的、統語的、意味的制約がある。

- i) 斜格名詞を修飾できない。
- ii) 名詞項や付加詞を取って連体修飾節を形成することができない。
- iii) 結果を含意する動詞でなければ連体修飾語になれない。

まず、i) について見る。上述のとおり、動詞 GE 形は絶対格の主要部名詞しか修飾できず、斜格主要部名詞を修飾した文は許容されない。また、動詞 GE 形は元々、共同格接辞が接続されているため、斜格を取ることもできない。(25) は、動詞 GE 形が場所格名詞を修飾できない例である。

- (25) **ya-tejɲal-len / *ya-tejɲal-len-a qajəkmiŋ-a cinin*
 GE-cry-SG / GE-cry-SG-INS(ERG) boy-INS(ERG) by.oneself
jəweɲe-ni-n-Ø təllətəl to ʕejɲew-ni-n-Ø əlla-Ø.
 open-3SG.A-3SG.P-PF door(ABS.SG) and call-3SG.A-3SG.P-PF mother-ABS.SG
 「泣いていた少年は自分で扉を開けて、母親を呼んだ」

次に、ii) について見る。動詞 GE 形は、上述のように単独で連体修飾語になることはできるが、名詞項や付加詞とともに連体修飾節を形成することはできない (26)。

- (26) **ɲanko ko-tva-ŋ-Ø naly-ə-n el'ʕa-ta mal'ajɲəve*
 there IPF-exist-IPF-3SG.S fur.skin-E-ABS.SG woman-INS(ERG) recently
ya-jomja-len.
 GE-dye-3SG.P
 「あそこに女が最近染めた毛皮がある」

iii) については、今後、詳細な調査が必要であるが、連体修飾語になれる動詞は結果が含意される動詞でなければならないようである。上述の (22) (23) (24) に加え、(27) の名詞

句は許容されるが、(28)の名詞句は許容されない。

- (27) a. *y-itol-lin miməl* 「沸いた湯」
 b. *ye-nətyelew-lin miməl* 「温めた湯」
 c. *ye-mle-lin uttəʕut* 「折れた木」
- (28) a. **y-acacyal-len kəmiŋ-ə-n* 「笑った子供」
 b. **ya-tejɣal-len kəmiŋ-ə-n* 「泣いた子供」

以上から、動詞 GE 形の主たる機能は主節述語であり、連体修飾は限られた範囲で可能な副次的な機能であることが予測できる。なお、i)、ii)、iii) で見た動詞 GE 形の制約が動作者名詞により補完されることは、第5節で見る。

4 名詞 GE 形の形態的・統語的特徴

動詞 GE 形と同じ屈折変化をする名詞 GE 形は、所有の意味を表わす (29)。コリャーク語には、所有を表わす専用の動詞がなく、代わりに名詞 GE 形や後述の動作者名詞 *-lɬ*、あるいは、「～の～がある」という構文が代用される。Zhukova (1972:162) は、名詞 GE 形を *-kin/-ken*、*-in/-en* とともに「関係形容詞」として「性質形容詞」と区別し、形容詞に分類している。また、同系のアリユートル語について、Kibrik et al. (2004: 285) もやはりこれを関係形容詞の下位分類とし、*habitive adjectives* 「所有形容詞」と呼んでいる。

- (29) *ye-cyej-lin* 「砂が多い」 *ye-jewjew-lin* 「雷鳥が多い」
ya-wəww-ə-len 「石だらけだ」 *ya-qlavol-len* 「夫がいる」

名詞 GE 形は、しばしば、「たくさんの～を持っている (*s bol'shim kolichestvom* ～)」(Zhukova 1972: 162) と訳されるが、上の *ya-qlavo-len* 「夫がいる」の例からも、量の多さは派生的な意味であると考えられる。

名詞 GE 形も主節述語としての機能に加えて、連体修飾機能も持つ。主節述語として現れる場合の屈折形式は、上表6で示した動詞 GE 形の屈折形式と同じである (30)。

- (30) *ya-qlavol-iyəm* 「私は夫がいる」
ya-qlavol-moje 「私たち二人は夫がいる」
ya-qlavol-mojo 「私たちは夫がいる」
ya-qlavol-iyi 「あなたは夫がいる」
ya-qlavol-toje 「あなたたち二人は夫がいる」
ya-qlavol-tojo 「あなたたちは夫がいる」
ya-qlavol-len 「彼女は夫がいる」
ya-qlavol-lenat 「彼女たち二人は夫がいる」
ya-qlavol-lenaw 「彼女たちは夫がいる」

(31) (32) は主節述語としての名詞 GE 形の例である。(31) は1人称複数と、(32) は *tənuɸ-0* 「丘 (絶対格単数)」と一致している。

- (31) *ewən van ənn'aq ya-qoja-mojo.*
 already probably now COM-reindeer-1PL.S

「私たちにはすでにトナカイがいる」

- (32) *tənup-∅ jəqqəm ya-wəww-ə-len.*
 hill-ABS.SG very.much GE-stone-E-3SG.S
 「丘は石だらけだ」

(33) (34) (35) は連体修飾語としての名詞 GE 形の例である。連体修飾語として用いられる場合には、主要部名詞の人称・数と一致する。

- (33) *ye-miməl-lin kokjoly-ə-n* 「水の多い 1 つの窪み」(単)
ye-miməl-line-t kokjoly-ə-t 「水の多い 2 つの窪み」(双)
ye-miməl-line-w kokjoly-o 「水の多い 3 つ以上の窪み」(複)

- (34) *ɲanko ko-tva-ŋ-∅ ya-wəww-ə-len tənup-∅.*
 there IPF-be-IPF-3SG.S GE-stone-E-SG hill-ABS.SG
 「あそこに石だらけの丘がある」

- (35) *q-ə-yite y-utt-ə-lin tənup-∅.*
 2SG.A.OPT-E-look.at GE-wood-E-SG hill-ABS.SG
 「木の多い丘を見なさい」

ただし、名詞 GE 形も動詞 GE 形同様、絶対格の主要部名詞しか修飾できない。したがって、*y-acɣ-ə-lin qoja-ŋa* 「肥ったトナカイ (絶対格単数)」が S の (36) や P の (37) は許容されるが、A が道具格 (= 能格) で現れた (38) は非文となる。すなわち、名詞 GE 形は連体修飾が可能であるが、主要部名詞が絶対格のみという制約がある。

- (36) *y-acɣ-ə-lin qoja-ŋa mal'kit ku-paqətku-ŋ-∅.*
 GE-fat-E-3SG reindeer-ABS.SG barely IPF-jump-IPF-3SG.S
 「肥ったトナカイはやっとこさ跳ねている」

- (37) *ɲanko y-acɣ-ə-lin qoja-ŋa t-ə-leɣu-n-∅.*
 there GE-fat-E-3SG reindeer-ABS.SG 1SG.A-E-see-3SG.P-PF
 「私はあそこで肥ったトナカイを見た」

- (38) **ɲanko y-acɣ-ə-lin qoja-ta ku-nu-ŋ-ni-n*
 there GE-fat-E-3SG reindeer-INS(ERG) 1SG.A-E-eat-3SG.P-PF
pəŋo-n.
 mushroom-ABS.SG
 「あそこで肥ったトナカイがキノコを食べている」

上述のように、名詞 GE 形は関係形容詞に分類されているが、他の関係形容詞のふるまいと比較してみると、連体修飾語としての制約はより明らかになる。すなわち、同じく関係形容詞に分類されている *-kin/-ken* は絶対格で単数、双数、複数を区別する以外に、場所格、道具格、与格、方向格、沿格で、*-in/-en* は場所格、道具格、与格、沿格で主要部名詞との格の一致を示し格変化する。(39) は *-kin/-ken* が場所格、(40) は道具格を取り、それぞれ主要部

名詞と一致している例である。これに対して、名詞 GE 形が主要部名詞と格の一致ができないことはすでに述べたとおりである。

- (39) *pojt-ə-kena-k* *wejem-ə-k* *ɣənvəq* *amalvaŋ* *it-ə-lɿ-o*
 Verx.Paren'-E-REL-LOC river-E-LOC many variously be-E-LH-ABS.PL
ənn-u.
 fish-ABS.PL
 「パレニの川にはたくさんの様々な魚がいる。」
- (40) *qajəkmiŋ-a* *məny-ə-t* *k-ilyəteŋ-ŋ-ə-ni-n* *wejem-kine-te*
 boy-INS(ERG) hand-E-ABS.DU IPF-wash-IPF-E-3SG.A-3DU.P river-REL-INS
miml-e.
 water-INS
 「少年は川の水で手を洗っている。」

以上、動詞 GE 形と名詞 GE 形の形態的・統語的特徴についてみてきた。いずれの GE 形も連体修飾機能には制約があり、主節述語が主たる機能であることが予測された。このことは、コリャーク語による語りのテキスト Kurebito (2014, 2016) における GE 形の出現率が、統語機能によって偏りがあることからもうかがうことができる。すなわち、動詞 GE 形、名詞 GE 形合わせて全 58 例のうち、主節述語として用いられている動詞 GE 形が 56 例、名詞 GE 形が 2 例、動詞 GE 形、名詞 GE 形いずれも連体修飾語として用いられている例は 1 例も見られない。エリシテーションによれば、連体修飾の例が得られるものの、実際のテキストでの出現頻度は高くなく、動詞 GE 形も名詞 GE 形も主節述語としての使用の方が優勢であるといえる⁶⁷。

5 動作者名詞との相関性

コリャーク語には、動詞 GE 形とは別に、もうひとつの形動詞的な形式がある。それは、動詞語幹に *-lɿ* という接尾辞が接続して派生される動作者名詞である（以下、「動詞 LH 形」と省略）。*-lɿ* は、動詞語幹以外にも名詞、形容詞、副詞語幹にもつきうる。このうち名詞語幹から形成される形式（以下、「名詞 LH 形」と省略）は、名詞 GE 形同様、所有の意味を表し、場合によっては、名詞 GE 形と意味上の違いが認められず置き換えが可能である。名詞 GE 形、動詞 GE 形の現れ方は、名詞 LH 形、動詞 LH 形のそれとなんらかの相関性を持つ可能性がある（なお、ここでは GE 形との比較が主眼となるため、形容詞 LH 形、副詞 LH 形は

⁶ ちなみに、同系のチュクチ語では、名詞 GE 形は述語的にしか用いられないとされている (Skorik 1961)。アリュートル語では、名詞 GE 形は連体修飾の例も散見されるものの、主節述語としての機能の方が主であるとされている (永山 2004, 2012)。

⁷ インフォーマントから名詞 GE 形が主節述語である次のような例文を得たが、その際、前半部分だけだとすわりが悪く、*ŋejaŋ* 以降の後半部分を付け加えた方がよいといわれた。あるいは、名詞 GE 形は主節述語として独立性が必ずしも高くないためなのかわからない。

(*ɣəccɪ*) *ɣa-majŋ-ə-ləla-jɿ*, *ŋejaŋ* *metɬaŋ* *q-ə-cɬewenn-iɿ*.
 2SG.ABS GE-big-E-eye-2SG.S then well 2SG.S.OPT-E-sew-2SG.S
 「お前は大きな目を持っている、だから、ちゃんと縫いなさい」

扱わない)。そこで以下では、GE 形を LH 形と比較対照させて見る。表 7 は、名詞 GE 形、名詞 LH 形、動詞 GE 形、動詞 LH 形の機能の分布を示したものである。

表 7：GE 形と LH 形の統語的機能

語幹の種類		名詞項	連体修飾	名詞節述語	主節述語
名詞	GE	×	△	× ⁸	○
	LH	○	○	○	○
動詞	GE	×	△	×	○
	LH	○	○	○	○

5.1 名詞 LH 形

名詞 LH 形は、所有以外に、手段、所属などを表わす。(41)～(46)は名詞語幹に接続した例である。(41)は名詞項 S (絶対格複数)、(42)は名詞項 A (道具格＝能格)、(43)は様態格、(44)は連体修飾語、(45)は名詞節述語、(46)は主節述語として用いられている。

- (41) *muji-k* *ʔopta cawat-ə-lʃ-o* *omakaŋ ko-tva-la-ŋ-θ*.
 1PL-LOC also lasso-E-LH-ABS.PL together IPF-be-PL-IPF-3S
 「投げ輪を持った人たちも私たちといっしょにいる／いた」
- (42) *məyʉ-lʃ-e* *ye-leʃu-lin* *ʔojacek-θ*.
 caravan-LH-INS(ERG) GE-see-3SG.P man-ABS.SG
 「キャラバンを組んだ人は男を見た」
- (43) *ŋejaŋ* (*yəcci*) *ŋelvəlʃ-ə-k* *jil-ə-lʃ-u* *q-ə-vetat-eke,* *tite*
 then 2SG.ABS herd-E-LOC tongue-E-LH-ESS 2SG.S.OPT-E-work-OPT when
melyətaŋ-o *jet-ə-k*.
 Russian-ABS.PL come-E-LOC
 「それなら、ロシア人が来たとき、通訳として群れで働きなさい。」
- (44) *qətv-ə-lʃ-e* *ʔojacek-a* *ʔajŋew-ni-n-θ* *el'ʔa-θ*.
 boat-E-LH-INS(ERG) man-INS(ERG) call-3SG.A-3SG.P-PF woman-ABS.SG
 「ボートに乗っている男が女を呼んだ」

⁸ 次のような例では、名詞 GE 形、動詞 GE 形が名詞節述語のように見えるが、確実に名詞節述語であると判断する標識がないため、ここでは暫定的に「×」としておく。

yəm-nan *ye-jyule-lin* *el'ʔa-θ* *ya-kmiŋ-ə-lin* / *ya-kmiŋ-al-lin*.
 1SG-ERG GE-know-3SG.P woman-ABS.SG GE-child-E-3SG.S / GE-child-VBL-3SG.S
 「私は女が子持ちだ／出産したと知った」

- (45) *ne-jyulet-yəm-∅ alva-məny-ə-lɣ-eyəm.*
 INV-recognize-1SG.P-PF different-hand-E-LH-1SG.S
 「それら（トナカイたち）は私には違う手があることをわかった」
- (46) *qinam yəm-nin ənniw-∅ joccaw-∅ mək-qoja-lɣ-ə-n.*
 even 1SG-REL uncle-ABS.SG Joccaw-ABS.SG many-reindeer-LH-E-ABS.SG
 「私の叔父のジョッチャウはたくさんのトナカイを所有していた」

5.2 動詞 LH 形

一方、(47)～(54)は、動詞 LH 形の名詞項、連体修飾語、名詞節述語、主節述語の例である。まず、(47)は名詞項 S（絶対格単数）、(48)は名詞項 A（能格）の例である。また(49)のように、名詞項は定形動詞同様に付加詞を取ることができる。

- (47) *jacy-epəŋ ala-k ɣənvəq wapaq-yele-lɣ-ə-n*
 field-PRL summer-LOC many fly.agaric-look.for-LH-E-ABS.SG
ku-lejv-ə-ŋ-∅.
 IPF-walk-E-IPF-3SG.S
 「夏になると、ベニテングダケを集める人がツンドラを歩き回る」
- (48) *ine-n-yəjul-ev-ə-lɣ-e ənniw-∅*
 AP-CAUS-learn-CAUS-E-LH-INS(ERG) uncle-ABS.PL
k-iw-ŋ-ə-ni-n.
 IPF-say-IPF-E-3SG.A-3SG.P
 「先生は叔父に言った」
- (49) *me-ŋqo jet-ə-lɣ-ə-n qonpəŋ*
 where-from come-E-LH-E-ABS.SG always
mət-ko-jajna-ŋvo-la-ŋ-ə-n.
 1PL.A-IPF-meet-HAB-PL-IPF-E-3SG.P
 「私たちはどこからか来た人をいつも歓迎している」

(50)は連体修飾語の例である。

- (50) *ɣanko umk-ə-k ənnen u-cvi-tku-lɣ-ə-n ənp-ə-qlavol-∅*
 there forest-E-LOC one wood-cut-ITR-LH-E-ABS.SG old-E-man-ABS.SG
ko-tva-ŋ-∅.
 IPF-be-IPF-3SG.S
 「向こうの森に一人の樵の老人がいた」

(51) (52) は連体修飾節述語の例である。動詞 LH 形は、主節の動詞の時制により、現在あるいは過去を表わすことができる⁹。また、定形動詞同様に名詞項や付加詞を伴うことができる。動詞 LH 形が取る名詞項は定形動詞が取る名詞項の格標識を保持している。

- (51) *qajəkmiŋ-ə-n*, [*ɣamin ajɣəve lejv-ə-lɣ-ə-n tənup-ɣəpəŋ*].
boy-E-ABS.SG INTRJ yesterday walk-E-LH-E-ABS.SG hill-PRL
「昨日、山を歩いていた少年」

- (52) *ɣajejo jəccəjəcɣ-o*, [*ɣamin ajɣəve cacamj-a*
those(ABS.PL) thread-ABS.PL INTRJ yesterday old.woman-INS(ERG)
tejk-ə-lɣ-u].
make-E-LH-ABS.PL
「昨日、老婆が作ったそれらの糸」

(53) は名詞節述語として用いられている例である。

- (53) *ecyi-kine-w jeppə n-əppul'u-qinaw, ewən əmən ɣe-jɣule-linew*
now-REL-ABS.PL still PRP-small-3PL certainly all GE-know-3PL.P
miŋkəje va-lɣ-o ɣajejo ɣeq-iml-u.
how be-LH-ABS.PL those(ABS) bad-water-ABS.PL
「今の人たちはまだ若いのにそれらのウォッカがどういうものなのか、なんでも知
てしまっている。」

(54) は動詞 LH 形が主節述語として用いられている例である。

- (54) *a-jejol'-ke-cɣat-ə-lɣ-ə-moje*.
not-understand-not-VBL-E-LH-E-1PL.S
「私たちはバカな振る舞いをした」

5.3 動詞 LH 形の動詞 GE 形に対する補完的關係

動詞 GE 形が連体修飾において次のような制約を持つことは、すでに 3.2 で見たとおりである。

- i) 斜格名詞を修飾できない。
- ii) 名詞項や付加詞を取って連体修飾節を形成することができない。
- iii) 結果を含意する動詞でなければ連体修飾語になれない。

動詞 LH 形はこれらの制約を補完していると考えられる。上述の i) の例 (25)、ii) の例 (26)、iii) の例 (28) をもう一度示しながら、これについて述べる。まず、動詞 LH 形は斜格を取り斜格名詞を修飾できるため、非文の (55 = 25) は、動詞 LH 形を用いた (56) では適格文になる。

⁹ 一方、未来を表わす非定形の連体節述語を形成するのは動詞語幹について「～する予定のもの」の意味を表わす *-jo-lqəl* である (呉人 2008)。

- (55) **ya-tejɣal-len* / *ya-tejɣal-lena* *qajəkmiŋ-a* *cinin*
 GE-cry-SG / GE-cry-INS(ERG) boy-INS(ERG) by.oneself
jəweŋe-ni-n-∅ *təllətəl* *to* *ʕejɣew-ni-n-∅* *əlla-∅*.
 open-3SG.A-3SG.P-PF door(ABS.SG) and call-3SG.A-3SG.P-PF mother-ABS.SG
 「泣いていた少年は自分で扉を開けて、母親を呼んだ」 (= 25)
- (56) *tejɣ-ə-lɣ-a* *qajəkmiŋ-a* *cinin* *jəweŋe-ni-n-∅*
 cry-E-LH-INS(ERG) boy-INS(ERG) by.oneself open-3SG.A-3SG.P-PF
təllətəl *to* *ʕejɣew-ni-n-∅* *əlla-∅*.
 door(ABS.SG) and call-3SG.A-3SG.P-PF mother-ABS.SG
 「泣いていた少年は自分で扉を開けて、母親を呼んだ」

次に、動詞 GE 形は、名詞項や付加詞とともに連体修飾節を形成することはできないが (57 = 26)、代わりに (58) のように動詞 LH 形に入れ替えれば適格文になる (ただし、名詞項や付加詞を取って連体修飾節の述語になる場合には、斜格を取ることができず、絶対格でのみ現れる)。

- (57) **ɣanko* *ko-tva-ŋ-∅* *naly-ə-n* *el'ʕa-ta* *mal'ajɣəve*
 there IPF-exist-IPF-3SG.S fur.skin-E-ABS.SG woman-INS(ERG) recently
ya-jomja-len.
 GE-dye-3SG.P
 「あそこに女が最近染めた毛皮がある」 (= 26)
- (58) *ɣanko* *ko-tva-ŋ-∅* *naly-ə-n* *el'ʕa-ta* *mal'ajɣəve*
 there IPF-exist-IPF-3SG.S fur.skin-E-ABS.SG woman-INS(ERG) recently
jomja-lɣ-ə-n.
 GE-dye-3SG.P
 「あそこに女が最近染めた毛皮がある」

結果を含意しない継続動詞の GE 形は (59 = 28)、(60) のように動詞 LH 形に直せば連体修飾が可能になる。

- (59) a. **ɣ-acacyal-len* *kəmiŋ-ə-n* 「笑った子供」 (= 28)
 b. **ya-tejɣal-len* *kəmiŋ-ə-n* 「泣いた子供」
- (60) a. *acacya-lɣ-ə-n* *kəmiŋ-ə-n* 「笑った子供」
 b. *tejɣa-lɣ-ə-n* *kəmiŋ-ə-n* 「泣いた子供」

6 おわりに

以上、これまで伝統的なコリャーク語文法で「形動詞」と呼ばれてきた動詞 GE 形を取り上げ、その特性について考察した。その結果、次の点が明らかになった。

- (A) 動詞 GE 形は連体修飾語、主節述語のいずれとしても用いられ、その意味では形動詞

的である。ただし、連体修飾語としての機能は、意味的にも形態的にも制限がある。名詞 GE 形にも同様の特徴が見られる。このことから、動詞 GE 形は主節述語としての機能を主とし、連体修飾語としての機能は副次的であると考えられる。

- (B) 動作者名詞は名詞項、連体修飾語、連体修飾節述語、名詞節述語、主節述語として広く用いられ、より形動詞的な性格を強く持つとともに、動詞 GE 形の機能的な欠落部分を補完していると考えられる。

ちなみに、動詞 GE 形と動詞 LH 形を統語機能別にコリャーク語の語りのテキスト Kurebito (2014, 2016) から拾い、出現率を比較してみると、動詞 GE 形の連体修飾語としての例が現れていない点は問題ではあるものの、両形の特性の違いが現れて興味深い (表 8)。

表 8 : GE 形と LH 形のテキストにおける出現率

語幹		名詞項	連体修飾	名詞節述語	主節述語	合計
動詞	GE	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	56 (100%)	56
	LH	38 (53%)	20 (28%)	4 (5%)	10 (14%)	72

全出現率に関しては、動詞 LH 形の方がやや高い。また、動詞 GE 形は主節述語のみ、動詞 LH 形は名詞項、連体修飾語、主節述語、名詞節述語と、機能的差異は明確である。LH 形の機能別出現率は、名詞項>連体修飾>主節述語>名詞節述語の順に高く、主節述語はそれほど高くない。以上から、いずれも形動詞的な多機能性を持ちつつも、前者はより述語的、後者はより名詞的であることが見て取れる。

以上、これまで必ずしも明確に示されていなかった動詞 GE 形の形動詞としての基本的な性格を、名詞 GE 形、動詞 LH 形との関係において示した次第である。

謝辞

本稿は、科学研究費補助金 (基盤研究 C) 「『コリャーク語文法』完成に向けた調査研究—ヴォイス・節構造の諸相を中心に」(26370480、代表：呉人恵) の研究成果のひとつである。データは、Kurebito (ed.) (2014, 2016) ならびに平成 26 年度から毎年、コリャーク語文法記述のためにおこなってきた現地調査で得られたものである。調査には Ajatginina Tat'jana Nikolaevna 氏 (1955 年マガダン州セヴェロ・エヴェンスク地区第 5 トナカイ遊牧ブリガード生まれ、女性) にコンサルタントとして協力していただいていた。ここに記して謝意を表したい。

略号一覧

A – agent-like argument	COND – conditional	HAB – habitual
ABL – ablative	DAT – dative	IND – indicative
ABS – absolutive	DU – dual	INF – infinitive
A – allative	E – epenthetic	INH – inchoative
AP – antipassive	ERG – ergative	INS – instrumental
CAUS – causative	ESS – essive	INT – intensifier
COM – comitative	GE – ye-/ya-	INTRJ – interjection

INV – inverse	OPT – optative	REL – relational
IPF – imperfective	P – patient-like argument	S – single argument
ITR – iterative	PF – perfective	SG – singular
LH – -If	PL – plural	VBL – verbalizer
LOC – locative	PRL – prolative	
NML – nominalizer	PRP – property predication	

参考文献

- Anderson, G. D. S. (2006) Towards a Typology of the Siberian Linguistic Area. In: Y. Matras, A. McMahon and N. Vincent (eds.) *Linguistic Areas: Convergence in Historical and Typological Perspective*, 266–300. Houndmills: Palgrave Macmillan.
- Bogoras, Waldemar (1922) Chukchee. In: F. Boas (ed.) *Handbook of American Indian Languages. Part 2* (Bureau of American Ethnology, Bulletin 40), 631–903. Washington D.C.: Smithsonian Institution.
- Dunn, Michael John (1999) *A Grammar of Chukchi*. A thesis submitted for the degree of Doctor of Philosophy of Australian National University.
- Keenan, Edward L. and Bernard Comrie (1977) Noun Phrase Accessibility and Universal Grammar. *Linguistic Inquiry* 8-1: 63–99.
- Kibrik, A. E., Kodzasov, S. V. and Muravyova, I. A. (2004) *Language and Folklore of the Alutor People* (ELPR Publication Series A2-042). Suita: Faculty of Informatics, Osaka Gakuin University.
- 呉人恵 (1999) 「チュクチ・カムチャツカ語族の母音調和に関する一考察」『富山大学人文学部紀要』3: 49–64.
- 呉人恵 (2008) 「分詞および関係詞によるコリャーク語関係節の相補的形成」『北方人文研究』1: 19–41.
- 呉人恵 (2009) 「コリャーク語の形容詞—その動詞的および名詞的性格と類型論的位置づけ」『アジア・アフリカ言語文化研究』77: 35–62.
- 呉人恵 (2016) 「コリャーク語の副詞節：名詞化タイプと非名詞化タイプ」『北方言語研究』6: 1–23.
- Kurebito, Megumi (2012) Adverbial Clauses in Koryak: Degrees of Subordination and the Five Levels 『北方人文研究』5: 71–94.
- Kurebito, Megumi (ed.) (2014) *Koryak Text 1*. Toyama: Faculty of Humanities, University of Toyama.
- Kurebito, Megumi (ed.) (2016) *Koryak Text 2*. Toyama: Faculty of Humanities, University of Toyama.
- Malchukov, Andrej (2013) Verbalization and Insubordination in Siberian Languages. In: Martine Robberts and Hubert Cuyckens (eds.) *Shared Grammaticalization: with Special Focus on the Transeurasian Languages*, 177–208. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
- 長崎郁 (2013) 「東アジア接尾辞型諸言語における動詞屈折形式：分詞に関する問題を中心に—導入と総括—」『北方言語研究』3: 1–10.

- 永山ゆかり (2004) 「アリュートル語の所有・存在を表わす形式について」 津曲敏郎編『環北太平洋の言語』11: 45–78.
- 永山ゆかり (2012) 「アリュートル語の所有を表わす2つの接辞」『北方言語研究』2:23–34.
- Nedjalkov, I. V. (1998) Converbs in the Languages of Eastern Siberia. *Language Sciences* 20 (3): 339–351.
- Nedjalkov, Vladimir (1994) Tense-aspect-mood Forms in Chukchi. *Sprachtypologie und Universalienforschung* 47(4): 278–354.
- 小野智香子 (2013) 「イテリメン語の形動詞に関する考察」『北方言語研究』3:137–154.
- de Reuse, W. J. (1994) *Siberian Yupik Eskimo, The Language and Its Contacts with Chukchi*. Salt Lake City: University of Utah Press.
- Skorik, P. J. (1961) *Grammatika chukotoskogo jazyka*, Vol. 1, Moskva/Leningrad: Izdatel'stvo Akademii Nauk SSSR.
- Skorik, P. J. (1977) *Grammatika chukotoskogo jazyka*, Vol. 2, Moskva/Leningrad: Izdatel'stvo Akademii Nauk SSSR.
- Stebnitskij S. N. (1934) Itel'menskij (kamchadal'skij) jazyk. *Jazyki i pis'mennost' narodov Severa, ch. III*, 85–104. Moskva/Leningrad.
- Stebnitskij S. N. (1936) *Materialy po itel'menskomu jazyku*. Lingvisticheskij fakul'tet Leningradskogo instituta filologii, literatury i istorii.
- Zhukova, A. N. (1972) *Grammatika korjaskogo jazyka*. Leningrad: Izdatel'stvo Nauka.

Functions of the participle compared with the “agentive noun” in Koryak

Megumi KUREBITO
(University of Toyama)

This paper focuses on the verbal GE-form (*ye-* / *ya-* + verb stem + person/number), which has been regarded as a participle in traditional Koryak grammar, and examines its functions as an attributive and a predicate of the main clause through comparison with the corresponding nominal GE-form and the so-called “agentive noun.” The analysis revealed the following points.

- (A) The verbal GE-form functions as both an attributive and a predicate of the main clause. However, its function as an attributive is restricted morphologically, syntactically, and semantically: (1) it cannot modify a noun in the oblique case; (2) it cannot occur with arguments and adjuncts; and (3) only the verb that connotes “result” can form attributive GE-form. Therefore, the main function of the verbal GE-form is that of a predicate in the main clause; its function as an attributive is secondary.
- (B) Agentive nouns formed by the suffix *-lʔ* function as not only a noun but also an attributive and a predicate in the nominal and main clauses. They also arguably compensate for the functional restriction of the verbal GE-form.